

## 単元名 (書写)行書で書こう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 行書の点画の特徴について理解を深め、筆使いに気を付けて書くことができる。  
(3) 行書で学習した成果を日常生活で生かそうとする。

## 標準的な展開例

11210119\_001

【教材名】「初志」「深緑」(P. 58～P. 63)

【準備等】毛筆のための練習用紙、水書板

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「ころもへん」の省略を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楷書と行書の違いについて、第1学年で学習した内容を振り返る。</li> <li>「初志」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★点画の連続と省略を理解して書こう。</li> <li>示範や教科書の「考えよう」(p. 59)を参照し、点画が連続している部分、省略されている部分について考え、自己課題を設定する。</li> <li>「初志」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批正する。</li> <li>毛筆でまとめ書きをする。</li> </ul> <p>2 「ころもへん」の点画の連続を理解して、字形を整えて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に、点画の連続と省略の筆使いについて学習したことを想起する。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★点画の変化と連続を理解して、字形を整えて書こう。</li> <li>前時の作品「初志」を示範や教科書の文字(p. 58)と比べて、自己の課題を見直し、設定する。</li> <li>「初志」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批正する。</li> <li>毛筆でまとめ書きをする。</li> <li>教科書(p. 59)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。</li> </ul> <p>3 「さんずい」の省略を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行書の連続と省略を確認する。</li> <li>「深緑」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★点画の連続と省略を理解して書こう。</li> <li>示範や教科書の考えよう(p. 61)を参照し、点画が連続している部分、省略されている部分について考え、自己課題を設定する。</li> <li>「深緑」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批正する。</li> <li>毛筆で練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本展開例は、2教材を2時間と3時間で取り組ませ、教科書(p. 62～p. 63)の硬筆は、それぞれのまとめとして取り扱う計画とした。</li> <li>教科書(p. 42～p. 43)を参照させ、第2学年では行書に書き慣れ、読みやすく、速く書くことができる力を養うことを知らせる。</li> <li>教科書(p. 59)に、楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高める。</li> <li>水書板等を用いて示範し、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。</li> <li>①「ころもへん」の書き方や筆順に気を付けて書く。</li> <li>②「ころもへん」の省略と次の画への連続に留意して書く。</li> <li>③「ころもへん」の三画目は、一度止めてから右上へ払う。</li> </ul> <p>【評】「ころもへん」の点画の連続と省略を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に書いたまとめ書きを数点示し、本時の目標を捉えられるようにする。</li> <li>筆使いに追加する基準は、以下のとおりである。</li> <li>④「志」の三～七画目まで筆脈を生かし、字形を整えて書く。</li> <li>隣同士で相互批正させ、課題を見直ししながら練習に取り組める機会を設けられるとよい。</li> <li>「生かそう」(p. 59)を用いて硬筆で練習をさせ、習得した技能を日常生活に生かす意識をもたせる。</li> <li>基準を確認し、試し書きと比較させる。</li> <li>【評】「ころもへん」の点画の連続や省略を理解し、字形を整えて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>前時の清書や、教科書(p. 42～p. 43)を参照して、連続と省略の方法を確認させる。</li> <li>教科書(p. 59)に、楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高める。</li> <li>水書板等を用いて示範し、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。</li> <li>①「さんずい」の二画目の連続に気を付けて書く。</li> <li>②「深」三画目での縦画から横画への連続に気を付けて書く。</li> <li>③「深」の木における点画の変化に気を付けて書く。</li> <li>生徒が設定した課題によっては「さんずい」や「深」のみなどの練習用紙を各自で作成して、活用してもよいことにする。</li> <li>【評】「さんずい」の点画の連続と省略を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取</li> </ul>

- 4 「いとへん」の筆順の変化を理解して、字形を整えて書く。
- 前時に、点画の連続と省略の筆使いについて学習したことを想起する。
  - 本時の学習課題をつかむ。
  - ★筆順の変化を理解して、字形を整えて書こう。
  - 前時の作品「深緑」を示範や教科書の文字(p.60)と比べて、自己の課題を見直し設定する。
- 「深緑」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批正する。
- 毛筆でまとめ書きをする。
- 教科書(p.61)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。
- 5 「さんずい」の省略と「いとへん」の筆順の変化を理解し、字形を整えて書く。
- 行書の連続と省略を確認する。
  - 「深緑」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の省略と筆順の変化を理解して書こう
- 示範や教科書の考えよう(p.61)を参照し、点画が連続している部分、省略されている部分について考え、自己課題を設定する。
- 「深緑」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批正する。
- 毛筆でまとめ書きをする。
- 6 これまでに学習してきた行書の特徴を理解して書く。
- 行書の点画の連続と省略、筆順の変化を確認する。
  - 本時の学習課題をつかむ。
  - ★行書の部分の書き方を確認して、熟語を書いてみよう。
  - 教科書(p.62～p.63)の教材文字を見ながら、基準を確認する。
- 教科書(p.42～p.43)の行書の特徴について、再確認をする。
- 応用(p.63)に取り組み、振り返りを行う。

り組む態度」を評価する。

- ・前時に書いた清書を数点示し、本時の目標を捉えられるようにする。
- ・「緑」の気を付ける点は、以下のとおりである。
  - ①「いとへん」の二、三画目での筆順の変化に気を付けて書く。
  - ②「緑」の?における点画の変化に気を付けて書く。
- ・隣同士で相互評価させ、課題を見直ししながら練習に取り組める機会を設けられるとよい。
- ・「生かそう」(p.61)を用いて硬筆で練習をさせ、習得した技能を日常生活に生かす意識をもたせる。
- 【評】「さんずい」と「いとへん」の点画の連続や省略、筆順の変化を理解し、字形を整えて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・前時の清書や、教科書(p.42, ～p.43)を参照し、連続と省略の方法を確認させる。
- ・教科書(p.61)に、楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高める。
- ・水書板等を用いて示範し、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。
  - ①「さんずい」の二、三画目の連続は、筆の弾力を生かして大きな動きを心がける。
  - ②「深」三画目の縦画から横画への連続は、一度止めて押し戻すように一筆で書く。
  - ③「深」の木における点画の変化は、一年時の「栄光」の「栄」の字の学習を想起し、比較して書く。
  - ④「いとへん」の二、三画目での筆順の変化は、筆順と点画の大きさに気を付けて、リズムカルに書く。
  - ⑤「緑」の?における点画の変化は、「深」の学習を生かして書く。
- 【評】「さんずい」と「いとへん」の省略や筆順の変化を理解して書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教科書(p.58～p.61)を参照する。
- ・行書の部分の書き方を確認して、二つの熟語をなぞり、いずれかを書かせる。
- ・基準は、以下のとおりである。
  - ①行書の特徴(変化、連続、省略、筆順の変化)
  - ②行書の部分の書き方(左右の組み立て方、上下内外の組み立て方)
  - ③同じ形でも位置によって異なる書き方について知る。
- ・本時の目標に関する内容を中心に、各自の課題点について確認できるようにする。
- 【評】行書の部分の書き方を理解し、熟語を書く活動を通して「知識・技能」を評価する。

#### 【 備 考 】

「ころもへん」「さんずい」「いとへん」の省略、筆順の変化を学習することで、行書を日常生活に生かせるようにしたい。各自の課題をもたせ、硬筆での練習にも取り組ませたい。

そして、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れ、学んだことを日常の書写活動にも生かせるようにしたい。

あの人が残した文字 教科書(p.56～p.57)(適時)

補助教材集 行書「雲海」「開花」教科書(p.142)